

R7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1361414
施設名	諏訪幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂・水・音・自然

2. 活動スケジュール

園庭の砂場やガシャポンプ(井戸ポンプ)の設備を活用し、砂遊びや泥遊びの充実する。砂や土の性質を学びながら、社会性や想像力、集中力をはじめとした様々な発達を促すことを目指す。
たまった水で遊べるように、水の終点に池をつくり玩具などは置かず、子どもが遊びたい物を持ってくるように声かけをする。

3. 探究活動の実践

<活動の内容> 砂場、ガシャポンプ、玩具

外遊びは 月 2～3 回 (天候によって 10 月～3 月)

- ・園全体やクラス毎での外遊びの時間内で先生や友達とともに、身近な砂や自然に触れて五感を使い楽しむ
- ・砂場で自由に砂を触り感触を楽しんだり、ガチャポンプで水が出てくる仕組みに興味をもったり、いろいろな玩具を使って水が流れる道をつくる
- ・順番やルールを守って遊ぶ経験を積む
- ・クラスだより等で、保護者へ共有する



<A>

- ・最初は並んでポンプを押すことを楽しむ
- ・水の勢いや感触が楽しくなる
- ・砂や玩具を水の道に置いて、流れる様子を楽しむ
- ・たまった水でやわらかい砂の感触、物を落とした時の水のはね具合を楽しむ
- ・船を浮かばせたり落ち葉を水で洗ったりする



- ・ヘキサゴン(トンネル)とベビーバスで水の道路をつくり、子どもたちはこっちに置いたらどうなるの?とトンネルをおいていた
- ・ポンプの上げ下げがむずかしく、理解していくと一人で行うことができた



<A>

・「水を汲むひと」「水を運ぶ人」その中で「泥団子を作る人」とそれぞれの役割を決めて、友達と協力しながら遊び進める姿が見られた。



・泥の感触から友達とやりとりを重ね、泥団子だけでなく川になったり池になったりとイメージを共有して遊びを広げ共同性や思考力の育ちも感じられた。



・砂場セット(トンネル(筒)、バケツ、スコップなど)

〈A〉 年長

・ポンプの水がでるところが大きな砂場に近い方が水路が短くてよいかも

・水が落ちるところをしっかりと固定した方が良いんじゃない?

(支えている道具を砂でうめたり、バケツで固定したりしていた)

・トンネルとトンネルを連結するとき水が流れやすい重ね方を考えて試しに水を流してみてもれたりあふれたりする個所を見つけて修正していた。

・はっぱもながしてみた。小さい方が流れやすい

大きい砂場にスコップで水路を作ったが砂が水をすいこんでしまったので、砂場の上にもトンネルを設置して水を流す。



年長

- ・大きい砂場にスコップで水路を作ったが、砂が水を吸いこんでしまったので、砂場の上にもトンネルを設置して水を流す
- ・水路の先に大きな穴をつくったが、そこまではたどりつかなかったので、次回挑戦！
- ・自然と役割分担をして、協力することができた



4. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

たまった水で遊ぶことを楽しんでいたので、もっと広く池をつくれれば子どもたちと一緒に沢山の船を浮かばせたり、道を作って道路に車を走らせてみたりすることができたと思う。

また、水の流れをもっと楽しめるよう、玩具を工夫するなどしてみてもよいと感じた。はじめてガシャポンプに触れて、子どもたちは何度も繰り返して興奮状態だった。

水路をつくる時に牛乳パックやペットボトルなどの身近な素材を用意するともっとイメージがふくらんだかも？(流す用のものなども軽いもの・重いもの色々)
年間を通して行くと暑い日、寒い日、晴れの日、曇りの日等遊び方や子どもたちの気づきも違うのではと感じた。

子どもたちは遊びの中で様々なことに気づき、工夫しながら遊びを発展させることができる。先生が事前に環境を整え、援助することも重要だが、遊びの中で偶然できた出来事が探求心の芽生えに繋がると実感した。

今回の事例を振り返ってみて、人的な環境として保育者の言葉がけ一つ入るだけで、さらに遊びが発展したであろうことに気づいた。「どこまで川をのばせるかな?」「向こう岸に辿り着かないね、どうしよう?」など子どもたちのイメージを膨らます言葉を意識して、関わるとさらにダイナミックな展開が期待できるのではないかと考えられる。主体的な探究活動から豊かな心の育ちに繋がるよう、環境構成を工夫していきたいと思った。

ガチャポンプに子どもたちが興味や感心があり、担任と一緒にポンプを上げ下げしていくうちに理解したようで一人で行っていた。水がでてくることで、バケツに水を入れて砂場まで運んだり、手に砂がついたのをガチャポンプを使って手を洗ったりしていた。たまった水で遊ぶことを楽しんでいたので、もっと広く池を作ったり、水の流れを楽しんだりするような環境を工夫する。

砂バンブーを使い水の道路を作った。水が流れると子どもたちは友だちと一緒に「こっちおいたらどうかな?」と言いながら、トンネルを置きかえたりしながら、水のトンネルを作っていた。その後、車や船を使って子どもたちの発想で遊びが展開していき、水と砂が混ざり合うことで、自分たちで自由に遊びを生み出してる場面も沢山あった。

日々の振り返りで子どもたちに今日の遊びの様子を聞くと、砂場で「〇〇をつくった」という話もよく出ていた。その話を聞くと、翌日に今まで興味がなかった子も参加して遊ぶ姿が見られ、このような振り返りの時間は必要だと思った。